

第二章 ゲームの遊び方

囲碁を楽しむには、実戦が大切です。「とにかくやってみる」ことが一番なのです。

(1) 囲碁対局ソフトの活用

それでは、これから囲碁をやってみるという方に、ぜひ、お勧めしたい実戦のやり方をご説明します。その第一は「囲碁対局ソフト」をご入手なさり、それを使ってパソコンで遊んでご覧になるという方法です。これですと、誰にも気を使う必要がありませんし、他人に覗き見される心配もありません。市販されているソフトはいろいろあります。どれをお求めになってもいいと思います。

その場合、最初はソフトにハンディキャップを貰って対局し、勝ったらハンディを軽くしていくという方法もいいと思います。現在の囲碁対局ソフトはさほど強くありませんが、入門者の練習用には最適です。塾員であり、現在ご活躍中の梅沢由香里プロも、入門者にはソフトの活用をお勧めになっておられます。

なお、以下の日本棋院のホームページからは、九路盤の「対局ソフト」を無料でダウンロードすることができます。これをぜひご活用いただきたいと思います。最初、あまり勝てないようでしたら、目数のハンディキャップ（例えば、機械に後手の白番を持たせて、自分は黒番になり、目数10目のハンディを貰う手合いから始めては如何でしょうか。盤面で9目負け以下であれば、こちらの勝ちと判定します。そして、勝ったらハンディを直していくのです。）日本棋院のサイトは以下でアクセスできます。

日本棋院のサイト <http://www.nihonkiin.or.jp>

「日本棋院：囲碁のポータルサイトカテゴリ」の欄から「打つ」の中の「9路盤ゲームソフト」をクリックすると囲碁対局ソフトのダウンロードができます。

(2) 初心者同士が遊ぶゲーム

もしも、ご一緒に囲碁を覚えてみようというお仲間がありましたら、ぜひ、お誘いしてください。そして、お二人で、以下にご説明するゲームをやってみることをお勧めします。とにかく、「やってみる」ことが囲碁を楽しむための秘訣です。

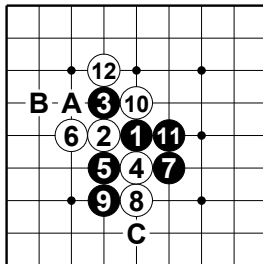
ここでは、囲碁を覚えるために初心者同士で遊ぶのに相応しい簡単なゲームを三種類ご紹介いたします。これらのゲームは囲碁そのものではありませんが、囲碁の技術を使ったゲームですので、それを遊ぶと、とてもいい経験になります。ぜひ、お仲間を作って遊んでみてください。

ゲームⅠ：「石・先取りゲーム」

ルール＝相手の石を一つでも先に取った人が勝ちという簡単なゲームです。

このゲームは相手の石を窒息させること、あるいは、自分の石が窒息にならないように防御することのいい練習になります。

実戦例：



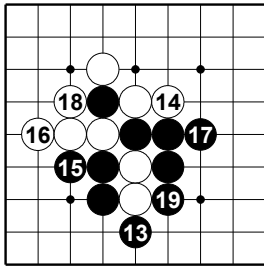
黒の(5)の手、(7)の手は「取るぞ」という手ですね。そして、それに対する⑥と⑧は「逃げるよ」という手です。ここで黒が(9)と守ったとき、白⑩は再び「取るぞ」であり、(11)は「逃げるよ」ですが、⑫に至り、黒が困りました。ここで、黒はAと逃げるほかありませんが、白がBと追いかけると、黒が先に取られることとなります。もう一手早ければ、黒もCで白が取れるのですが・・・この「石・先取りゲーム」はこのように一手違いで勝負がつくことが多いでしょう。

単純なゲームですが、石を取る練習には最適であり、また、意外に奥の深いゲームです。

ゲームⅡⅡ：「石・数取りゲーム」

ルール＝相手の石を一つでも多く取った人が勝ちというゲームです。取る石の数を競います。このゲームでは、盤上の地は数えません。相手の石を窒息させて盤上から追放するのが目的のゲームです。このゲームは窒息の練習に最適です。

実戦例：



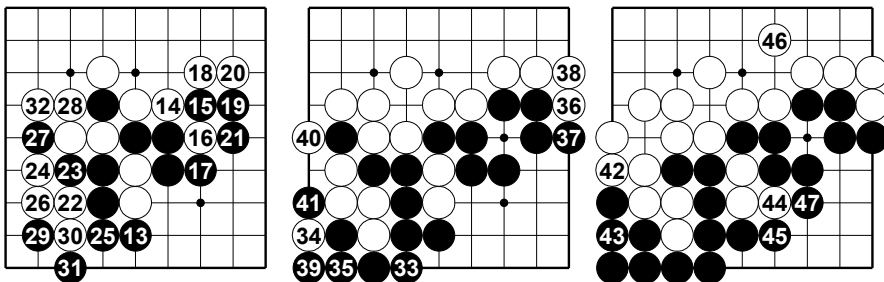
⑬までは最初のゲームと同じですが、その後の進行を追ってみましょう。黒は(13)で白石二つが取れそうな進行です。⑭から(17)まで双方が石を取られない安全策を取っています。そして、白が⑱と黒石一つを取り、黒が(19)と白石二つを取りました。このあとは、もう互いに相手の石を取ることは出来ないでしょう。すると、このゲームは2対1で黒の勝ちです。最初のゲームと勝敗が逆になりましたね。

ゲームⅠⅠⅠ：「盤上石ゲーム」

ルール：この碁では最後に盤の上に残っている石の多い方が勝ちです。

このゲームになるとその打ち方は囲碁と全く変わりがなくなります。実はこのゲームは「純碁」とも呼ばれる囲碁の原型となるのゲームなのです。「盤上に残っている自分の石」と「自分の地」の合計点を争う中国の囲碁とほとんど同じですので、このゲームを沢山打つと、囲碁の対局経験になります。

実戦例：



(13)では最初のゲームと同じで、⑭からが新しい進行です。白は⑱と取られる石をわざと作っていますがこれは犠牲打であり、⑱⑳で自分の陣地を増やしているのです。黒も(27)が犠牲打です。最後の白(46)と黒(47)とは、日本ルールの計算では損な手になりますが、このゲームでは損になりません。

さて、点数の確認をしましょう。最後の図で、まず盤上にある石の数を勘定しましょう。すると黒22、白18です。それでは黒が勝ちかというところではありません。なぜかという、この後、石を置くことができる点に差があるからです。白は上辺に25点の空点を持っており、一方、黒は下辺に16の空点を持っています。ですから最後の図のあと、互いに自分の陣地の中に石を置いていくのですが、最後に眼のために二つ空点を残すとして計算すると、白

はあと23白石を置くことができ、黒はあと14の石を置くことができますことになります。
したがって、

$$\text{黒} \quad 22 + (16 - 2) = 36$$

$$\text{白} \quad 18 + (25 - 2) = 41$$

という計算になり、このゲームは白の5目勝ちと判定されます。このゲームでは取った石が多い方が有利とはかぎりません。陣地を確保することが大切です。

このゲームの計算は、一見、日本ルールの計算と違うように思えるかもしれませんが、実は中国ルールの計算とほぼ一致しており、このゲームは囲碁そのものと言っても差しつかえありません。最後に参考のため、同じ結果を日本ルールで計算してみましょう。その場合は(46)と(47)の二手は保留されることとなりますが、

$$\text{黒} \quad 17 + 5 \text{ (逮捕した白石の数)} = 22$$

$$\text{白} \quad 26 + 2 \text{ (逮捕した黒石の数)} = 28$$

と計算され白の6目勝ちになります。この場合、中国ルールの計算より、白が1目余計に勝った計算になりますが、その理由は最後に(47)と黒が打ったことにより、総着手数が白より黒の方が一手多くなっているからです。